

2021年3月3日

各位
プレスリリース

株式会社農業総合研究所

JR 東日本と農産物流通プラットフォームを共同運用 鉄道インフラを活用して新鮮な産直農産物を最短でお届けします

「持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにする」をビジョンに掲げ、全国の都市部を中心としたスーパーマーケットで『農家の直売所』を運営する株式会社農業総合研究所（本社：和歌山県和歌山市、代表取締役社長：堀内寛、以下「農総研」）は、2020年10月14日に発表した東日本旅客鉄道株式会社（以下、「JR 東日本」）との資本業務提携の第一弾として、JR 東日本のインフラを活用した新しい農産物流通プラットフォームの共同運用をスタートします。この提携事業を通じて、主に関東・甲信エリアの農産物の販路拡大と生産者の収入源増を目指すとともに、新鮮で鮮度の高い農産物を首都圏を中心とした消費者に最短1日でお届けします。

■主な取り組み(本件のポイント)

- ✓ JR 東日本の駅及び駅周辺施設を活用した利便性の高い農産物集荷場の整備
- ✓ JRE MALL (EC サイト) 内に農産物販売ショップ「農家の直売所」を出店
- ✓ 集荷した農産物を列車で運び、都市部の駅構内の特設コーナーで販売

① 駅および駅周辺施設などを活用した農産物集荷場「JRE 農業ステーション」の整備

まずは、千葉県の内房線江見駅、茨城県の水郡線上菅谷駅、長野県の中央線辰野駅の3か所で農産物集荷場「JRE 農業ステーション」を整備し、当該地域の生産者から農産物を集荷します。集荷した農産物は首都圏を中心としたスーパーマーケットの「農家の直売所」に最短1日でお届けします。都市部の消費者は、新鮮で熟度の高い農産物を安価に購入することが可能になります。今後も地方の駅や駅周辺を中心に「JRE 農業ステーション」の整備を進めて参ります。また、農産物集荷場におけるスタッフの雇用を通じて、地域における雇用の拡大にも貢献します。



② JRE MALL 内に農産物販売ショップ「農家の直売所」を出店

JR 東日本グループが運営する EC サイト「JRE MALL」内にて、農産物販売ショップ「農家の直売所」を本日 3 月 3 日にオープンし、集荷した新鮮な農産物を販売します。サイト内のショップで注文された商品を、集荷から最短で翌日にお届けします。



③ 農産物の列車輸送と都市圏のエキナカでの販売

「JRE 農業ステーション」やその他の農業総合研究所が有する集荷場などで集荷した農産物を列車で輸送し、主に首都圏の駅構内で販売する実証実験を行います。朝採れ野菜を夕方販売する等、お客さまに鮮度の高い農産物を提供します。



■会社概要

株式会社 農業総合研究所 JPX 証券コード 3541

農総研は、「持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにする」をビジョンに掲げ、日本及び世界から農業が無くならない仕組みを構築することを目的とした産直流通のリーディングカンパニーです。全国約 9,500 名の生産者と都市部を中心とした約 1,700 店舗の小売店を IT でダイレクトに繋ぎ、情報・物流・決済のプラットフォームを構築することにより、これまでになかった新しい農産物流通システムを展開しています。

農総研は、2021 年 6 月に農業ベンチャー初の上場（東証マザーズ）から 5 年の節目を迎えます。上場 5 年で流通総額が約 2 倍、「農家の直売所」の店舗数が約 2.5 倍、登録生産者数が約 1.7 倍までに成長いたしました。産直流通のリーディングカンパニーとして、青果類流通の新しい社会インフラとして、次なる 5 年を見据えた積極的な事業展開と投資を実施してまいります。

以上